

2020年1月28日

保育の職場体験・介護のインターンシップ報告会のお便り

総合学科推進部



冬休みの1日あるいは2日間を利用して8人の厚高生が保育の職場体験（札幌市主催）または介護のインターンシップ（セントケア北海道株式会社）を実施してきました。それを受けて、1月22日（水）に報告会を行いました。報告会には、3名欠席、5名の出席となりました。みんな働く大人の素敵なところに触れて、「格好いい!」とあこがれたようです。

保育の仕事内容は、子供と遊ぶ、昼寝をさせる、昼ご飯とおやつの配膳や盛りつけ、服の着せ替え、園だより作成の手伝い、保護者が迎えに来るまでの子供の世話などでした。



2年7組の櫻井風馬君は青葉興正保育園へ行きました。「子供たちがすごく元気で遊びに夢中になりました。でも、保育士さんたちは、そんな中でも子供の安全に常に気をつけ、落ち着いた対応と冷静な判断をしていたことが印象的で、すごいなと思いました。」

2年7組の浅野篤奈さんは認定こども園北郷すずらんへ行きました。

「子供たちと遊んでいると夢中になりました。でも、保育士さんは他の保育士さんのことや保護者に気を配り、視野が広いと感じました。また、保育士さんが優しい雰囲気だったので子供をしっかりと叱ったときは少しびっくりしましたが、叱った後で努めて優しく声をかけたりしているところが印象に残っています。保育士の仕事は、子供の成長に立ち会えることが魅力だと思います。」



2年1組の佐藤亜子さんは札幌わんぱく館へいきました。「最初一人の園児と話をしていたのに、あとから次々と子供たちが寄ってきて「話を聞いて」と言いました。外で遊ぶとき、園児は帽子に雪を入れたりして遊びました。子供の笑顔がよかったし、時に、子供はわがママを言ったりしますが、成長のためには必要なことだと思いました。」また、「子供なのにあやとりあやとりのすごい技をみせてくれました。」と子供の能力に驚いていました。「保育志望なので将来保育士の仕事に就きたいです。」

介護の場合、主に訪問入浴を行いました。主に3人チームで行い、内1名は看護師が入ります。看護師が高齢者の体の状態把握している間、お風呂を組み立て、高齢者を入浴させます。歌を歌ったり、話をしながら楽しく、明るい雰囲気きんきんでひとときを過ごしました。



2年4組の小林蒼さんは介護のインターンシップを行いました。札幌市内の家へ訪問しました。

「高齢者の方が、自分でできることは見守るなど、その人に合わせた方法でケアをすることに心がけていることや家族の人をも支えることを学びました。高齢者はいつどうなるか分からない中でそのひとときに立ち会えることがやりがいだと教えて頂きました。」

2年5組の松本佳穂さんも介護のインターンシップを行いました。札幌市内の家へ訪問しました。

「最初、介護の現場は堅い雰囲気なのかなと思ってましたが、参加してみてイメージが変わりました。アットホームな感じで温かったです。つらい仕事だけれどこんなに感謝される仕事はないと思います。働く人たちも、暗い言葉を言わないようにし、みんなで良い空気感にしている。仕事をしてみてこの仕事が好きだといえる人は仕事に向いていると教わりました。誘われて参加したけど、将来の進路の視野に入れたいです。体験したことは忘れません。」



短い間でしたが、みんなは心と体と頭を動かし、充実したひとときを過ごしてきたようです。この体験がみなさんの力になるように願っています。